

(研究会議用)

令和3年度 研究概要

研究推進担当者会議

所属名 カリキュラムセンター	研究会議名 算数数学研究会議
研究主題	振り返り学習活動を生かした個に応じた指導 ～スタディ・ログ（学習履歴）を活用した個に応じた指導～
資質・能力 育成を目指す	主体的に取り組む問題解決能力の育成
研究内容	<p>本市では、かわさき教育プランに基づき、第2期実施計画の取組において、基本政策Ⅱの施策1「確かな学力の育成」において、すべての子どもが「分かる」ことをめざして、一人ひとりの「学び」を大切にした学力向上策を推進している。一人ひとりの子どもは多様であり、つまずきや学習の遅れなど、多様な学習状況に対して、よりきめ細やかな対応を図るため、習熟の程度に応じた少人数指導やTT指導など、個に応じた取組を推進している。4月に行ったきめ細やかな指導担当者会のアンケート結果から、子どもが「分かる」を実感する授業づくりをする上での悩みや困っていることとして、個への支援の仕方が難しいと感じている先生が多くいることが分かっている。また、「令和の日本型教育」の中で「個別最適な学び」、「協働的な学び」がキーワードとなっているが、その根底にあるものは、それらを踏まえ指導者側が子ども一人ひとりの可能性を最大限に引き出すことが大切である。「個別最適な学び」が「孤立した学び」にならぬよう、探究的な学習など多様な他者と協働しながら、他者を尊重し、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」も充実させなければならない。</p> <p>本研究会議では、個に応じた指導というものを再度捉えなおした。内容のまとまりを意識し学習指導計画・評価計画を作成したうえで、日々の授業で行っている子どもの「振り返り」活動を大切に、その活動がそれぞれの個に対する支援につながる指導について考える。その際、ICTの活用により、学習履歴（スタディ・ログ）を生かした指導、GIGA端末の活用を踏まえた指導についても検証を行う。</p>